

東京学芸大学 大森直樹研究室主催 公立小学校等教員対象

調整授業時数制度と時間割のアンケート 回答ご協力依頼

公立小学等教員のみなさま

東京学芸大学の大森直樹です。

次の教育課程基準では調整授業時数制度の導入が計画されており、学校の時間割が大きく変わる可能性があります（下記参照）。

どのような時間割が子どもに合っているのか、先生方のお考えを教えてください、今後の教育課程基準と教育課程のあり方に活かしていきたいと、アンケートへのご協力をお願いいたします。結果については、大森研究室からの情報発信と提言等に活用させていただく予定です。

アンケートフォームはこちらから↓


<https://forms.gle/dy2v7UbZCsipeMn57>

- ・スマートフォン・タブレット等から回答可能です。
- ・回答は匿名で集計され、所用時間は3～5分程です
- ・回答締め切り 2026 年 8 月 17 日

2026年の試行による小6の時間割					
	月	火	水	木	金
1	40分	40分	40分	40分	40分
2	40分	40分	40分	40分	40分
3	40分	40分	40分	40分	40分
4	40分	40分	40分	40分	40分
5	40分	40分	40分	40分	40分
給食・昼休み等					
6	20分	20分		20分	20分
7	40分	40分		40分	40分

【調整授業時数制度とは】

中教審では、小4～6の標準時数1015コマはそのままにして、対象教科等の標準時数を最大15%つまみ（減らし）、その分を学校の判断で、以下にあてることも可能にする案が検討されています。

- A 他教科に上乘せ
- B 教科新設
- C 裁量(学習枠)
- D 裁量(研修・研究枠)…最大35コマ

調整授業時数制度は、標準時数の総量を据え置いたまま、学校裁量により再配分をします。学校が活用する場合には、どの教科からどのようにつまむか、ABCDにどのようにあてるかを考える必要があり、その考えに応じて時間割が変わります。今年度から、サキドリ研究校が全国で332校指定され、試行が始まっています。事例をみると、45分授業を40分にして、その分をABCDにあてる小学校が47%です。上図のように1日7コマの時間割を組む例もありました。